

2024.11.14

第5回 木曜考古学講座

森遺跡の外来文化

— 令和6年度特別展に関連して —

於：交野市立倉治図書館

外来文化とは

- 縄文時代以降、あらゆる時期を通じて多くの人々が海を渡って日本列島にやってきた。
- その内第1回目の大きな波は、縄文時代の終わり頃に朝鮮半島からやってきた渡来人による。(弥生文化の形成)
- 第2回目の大きな波は、古墳時代中期から後期にかけて様々な技術や文化を伝えた多くの渡来人とその功績。
- 韓式系土器の分布は、外来文化のメルクマール

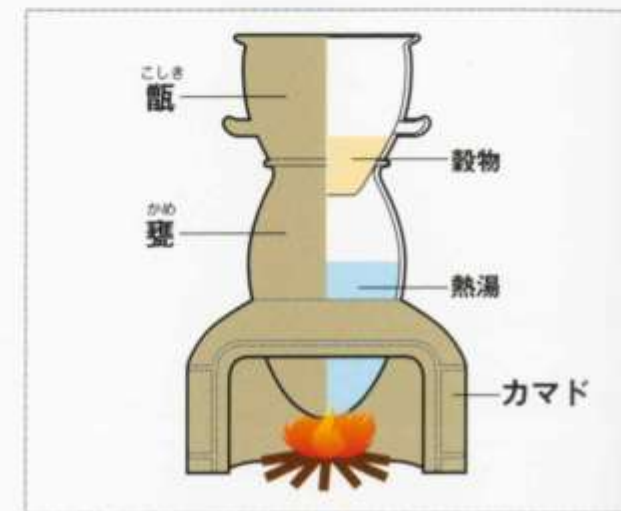
竈（カマド）と甑（ロシキ）



古墳時代の竪穴建物

カマド

※火のまわりをドーム状に囲んでいるため、炉に比べて、熱が伝わりやすくなります。



※コシキの底には穴が空いていて、今の蒸し器のように、水蒸気によって穀物が蒸せます。



甑



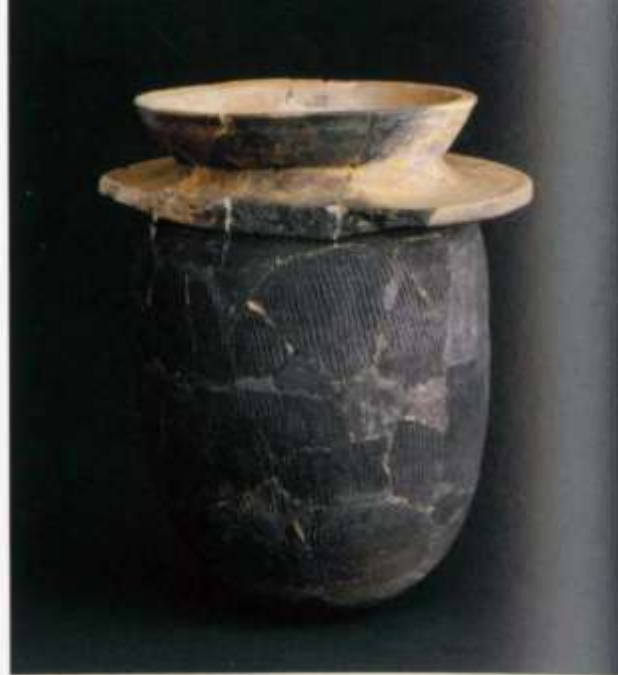
移動式カマド



韓式系土器

―カマドの設置―

長胴甕と羽釜と鍋



羽釜



長胴甕

鍋



韓式系土器

炊飯具

河内湖周辺の韓式土器 出土地点



文献資料から見た 来人と渡来系文化

- 日本書紀
- 古事記
- 新撰姓氏録(しんせんしょうじろく)
- 倭名類聚抄(わみょうるいじゅしょう)
- 東漢氏(やまとのあやし)
- 西文氏(かわちのふみし)
- 泰氏(はたし)
- 西漢氏(かわちのあやし)
- 今来才伎(いまきのてひと)

新撰姓氏録

- 成立年代は、815年(弘仁6年)
- 畿内に居住する1,182氏について、その出自と系譜を記載。
- 皇別 335、神別 404、諸蕃 326、未定 117
- 交野郡の氏族
交野忌寸(諸蕃)、肩野連(神別)、物部片野連(神別)

片野連足嶋



大野寺土塔出土の
文字瓦

倭名類聚抄

- 成立年代は、935年(承平5年)
- 国語辞典・漢和辞典・百科事典
- クレ(呉)・カラ(唐)・クダラ(百済)・コマ(高麗)・シラギ(新羅)を冠した言葉が多く見られる。
- 呉竹(くれたけ)、唐櫃(からびつ)、百済琴(くだらこと)、
狛鉾(こまほこ)、新羅琴(したぎこと)

東漢氏（倭漢人）とは

「古事記」「日本書紀」によれば

- 応神天皇の頃に、その祖が渡来したとされる氏族。
- 阿知使主（あちおみ）を祖とする渡来系氏族集団。

その子都加使主（つかおみ）も同行。

- 5世紀初頭に渡来し、明日香村を中心と地域に住み着いた氏族の総称。

西文氏とは

「古事記」「日本書紀」によれば

- 応神天皇の頃に、和邇吉士(わにきし)＝王仁(わに)が渡来。
- 王仁は、論語10巻と千字文一卷を伝える？
- 王仁は、西文氏の祖される。
- 古市とその周辺地域に、大和王権が西文首、馬首、蔵首ら渡来系氏族を置いた。

秦氏とは

「古事記」「日本書紀」によれば

- 応神天皇の頃に、秦造の祖が渡来したことを伝える。
- 「新撰姓氏録」によれば、太秦公宿禰（うずまさのきみすくね）の祖は、秦の始皇帝の三世孫孝武王とされる。
- その祖を東漢氏の靈帝より、古く遡らせている。
- 山背（山背）地域に本拠を置き、枝氏は北河内や近江など。

西漢氏(かわちのあやし)とは

「古事記」「日本書紀」によれば

- 雄略七年の条に、西漢手伎歡因知利(かわちあやてひとか
んいんちり)の名が見える。
- 東漢人や西文氏とは、別系統の渡来系氏族。
- 河内に居住し、東漢氏の支配下に置かれる。

今来手伎(いまきのてひと)とは

「古事記」「日本書紀」によれば

- 雄略紀七年条に、百済が献じた今来手伎が渡来する。
- 陶部高貴(すえつくりべこうき)、鞍部堅貴(くらつくりべけんき)
画部因斯羅我(えかきべいんしらが)、錦部定安那錦(にしごりべじょうあんなこん)、訳語卯安那(おさしゅうあんな)
- 東漢直掬(やまとのあやのあたいつか)の支配下に置き、明日香を中心に居住する。

古墳時代中期の外来文化

- 新たな土木技術の伝来
- 馬の飼育や乗馬の風習、馬具の生産
- 鍛冶(鉄器生産)技術
- 須恵器生産
- カマドの設置と新たな調理具による食生活の変化

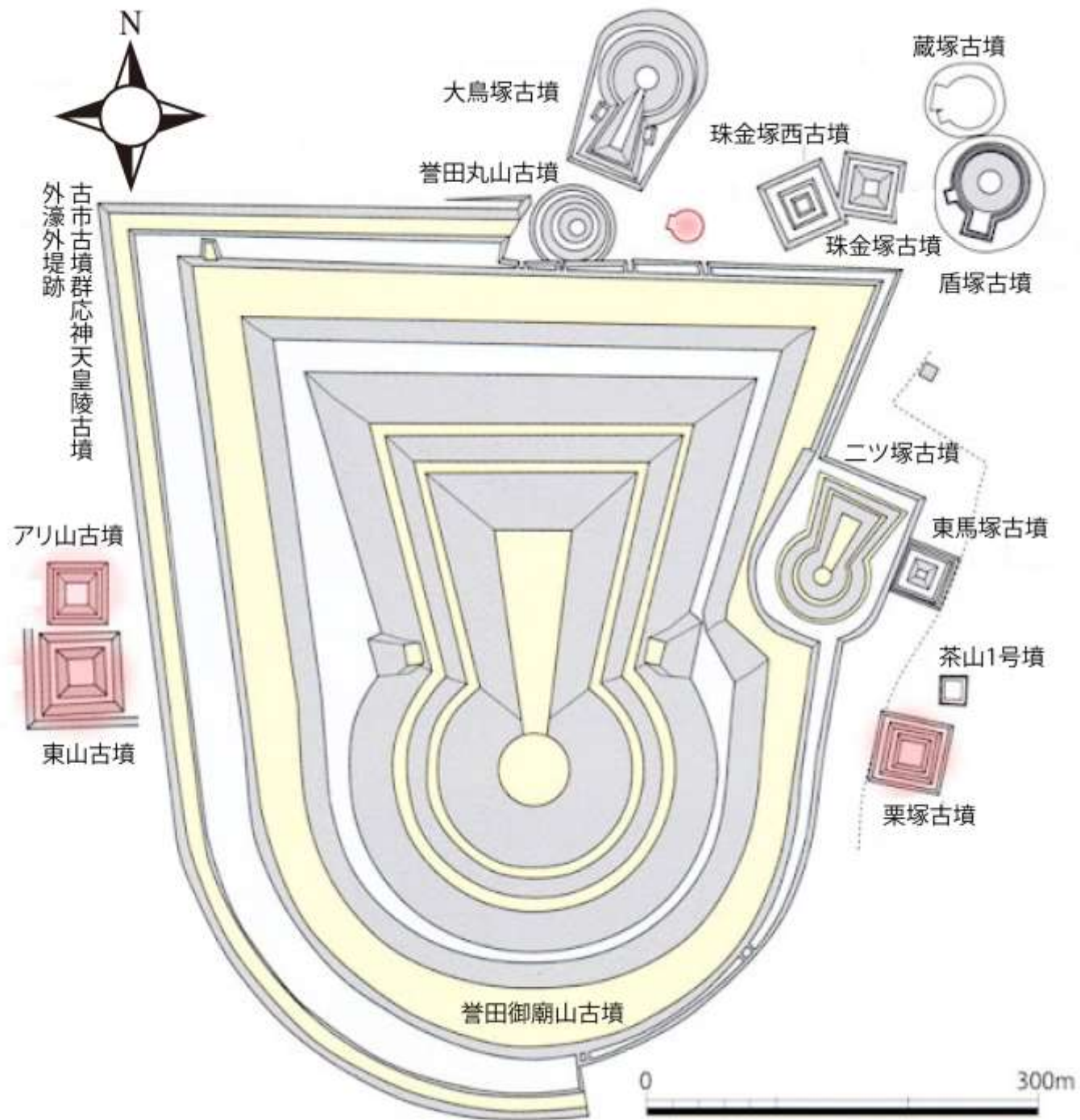
■ 河内平野の開発と段丘面の開発

- ・仁徳10年 河内平野の水害を防ぎ、開発を行なうために
難波の堀江の開削と茨田堤の築造を行なった。
- ・仁徳12年 山背の栗隈県に灌漑用水を引かせた(栗隈大溝)
- ・仁徳13年 和珥(ワニ)池(奈良? 富田林?)・横野堤(大阪市
生野区)・依網(ヨサミ)池(住吉区)を築造した。
- ・仁徳14年 百済川に橋を架ける。(猪甘津橋・生野区)
灌漑用水として感玖(かむく)大溝を掘削し、
広大な田地を開拓した。

応神天皇陵古墳の築造



外濠外堤と大水川

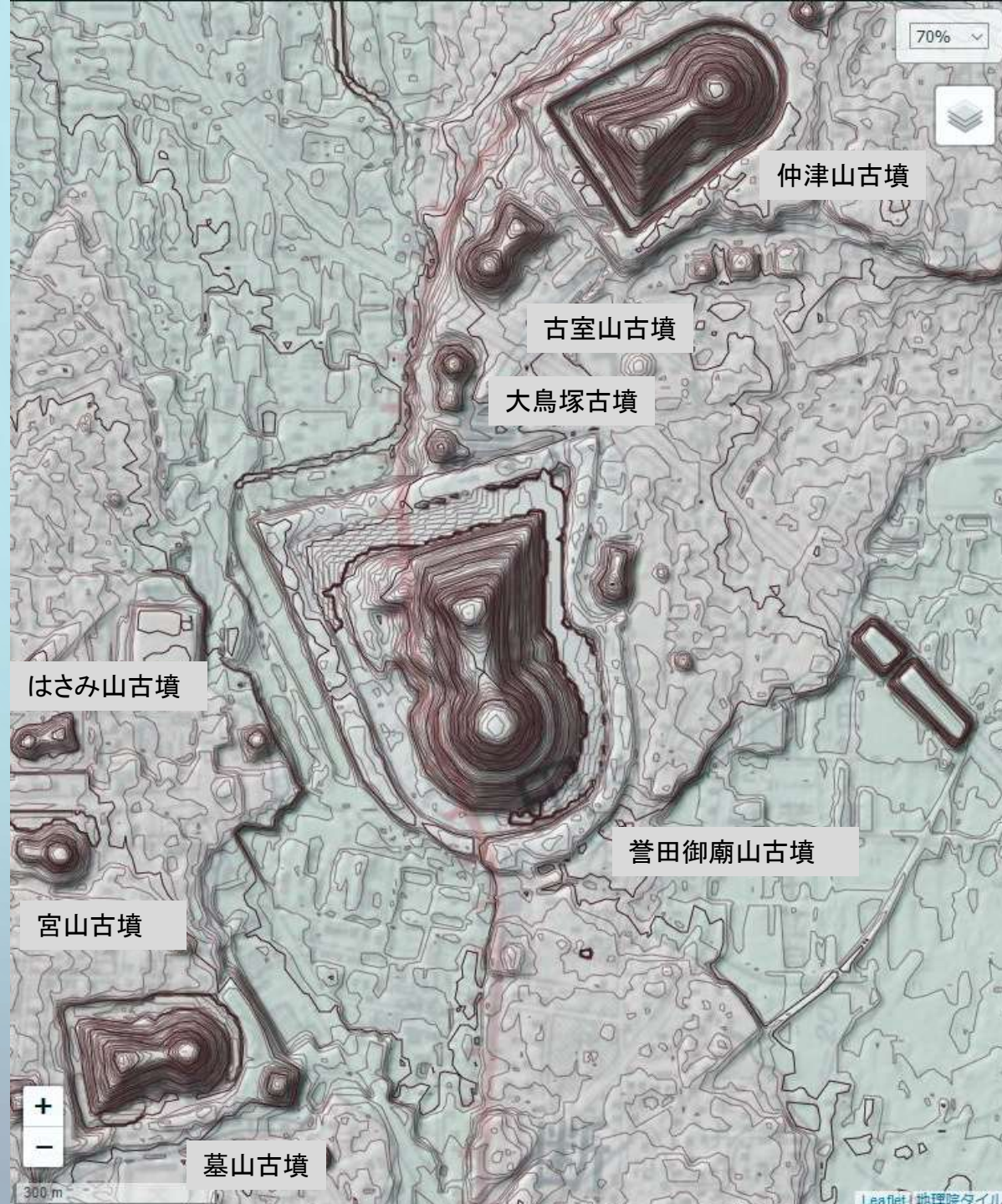


応神天皇陵古墳復元図

現代の大水川



応神天皇陵古墳の築造



河内の馬飼

- 河内(川内)馬飼部の設置(5世紀後半)
- 倭馬飼造(みやつこ)、川内馬飼造 連の姓を賜う(683年)
- 娑羅々(さらら)馬飼造と菟野(うの)馬飼造も連の姓賜う
- 薨屋北(しとみやきた)遺跡
- 讃良郡条里(さらぐんじょうり)遺跡

四條畷市 薮屋北遺跡



馬埋納土坑

— 全身骨格出土狀況 —

百舌鳥綾南遺跡

菰屋北遺跡



鞍



製塩土器

馬関連遺物
— 木製鞍と製塩土器 —

森遺跡の外来文化

- 鍛冶（鉄器生産）関連遺構と遺物
鍛冶炉、フイゴの羽口、鉄滓
- 生活の中の外来文化
カマド付住居の普遍化
甑による調理
- 韓式系土器や新羅系土器の出土

ここからは、資料館で展示を見ながらお話ししましょう。

それでは、移動します。

お忘れ物のございませんようにお願ひします。

- パワーポイントを終了します